

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年12月11日

No.37

校長 坂野修一

## 児童会役員選挙 投開票日迫る！



暖冬でしたが、ようやく冬らしくなってきました。暖房が欠かせない寒い毎日ですが、早川南小学校は熱い選挙戦に突入しています。明日立ち会い演説会が行われ、即日投開票となるわけですが、会長、副会長それぞれ1名が選ばれるところ、会長には5年生全員の3人が立候補、副会長には、選挙管理委員を除く4人が立候補しています。子どもたちの、やる気みなぎる姿での選挙運動を見るにつけ、頼もしさを感じています。今回の児童会役員選挙は、自分たちの代表を決めるとても大切なものです。でも投票だけして後は任せるということでは困ります。「早川南小は自分たちの大切な学校だ」という強い気持ちをみんなが持つ必要があると思います。

2016年7月に行われた参議院選挙と2017年10月に行われた衆議院総選挙について調べました。新しい公職選挙法が成立し、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた後の2つの国政選挙です。今までは投票できなかった18歳・19歳の人が加わり、高校3年生でも投票できる新しい公職選挙法での選挙の投票率に注目しますと、残念ながら全体の投票率はあまり高くありませんでした。

### 公職選挙法改正後の国政選挙 10代の投票率及び全体の投票率 全国&山梨 参考…早川町

	16参院選			17衆院選		
	18歳	19歳	全体	18歳	19歳	全体
全国	51.28%	42.30%	54.70%	47.87%	33.25%	53.68%
山梨	54.16%	41.51%	58.86%	57.62%	35.14%	60.74%
早川町	?	?	76.51%	?	?	75.18%

30年前には全体の投票率は70%を超えていましたが、現在は50%台になっています。そして最近の20歳代の投票率は20～30%台にとどまっています。2人に1人は選挙を棄権する。20代に至っては、7割8割が棄権する実態に驚きが隠せません。これからは、若い世代の投票率を上げることが重要であって、そういう意味では、新しく選挙権が与えられた10代の投票率がそれなり(?)の数字が出ているので、主権者教育など今後の取り組み次第で若者の低投票率に歯止めがかかる可能性があると思います。(ちなみに、山梨県の昨年の衆院選18歳の投票率57.62%は、**全国第2位**の高投票率です。) その主権者教育とは、「社会のできごとを自ら考えて判断し、主体的に行動する主権者を育てること」と定義されています。今回の児童会役員選挙においても、自分が立候補者の意見や提案をしっかりと聞いて誰に投票するかを自分が判断し、そして、選挙で選ばれた代表の人を尊重して、その人に協力しながら自分も一緒に学校をよくしていくという心構えを持ってほしいと思います。

2016年の参院選キャッチフレーズは、「選挙は私たちが主役ですから」「日本の将来を決めに行こう」。2017年衆院選キャッチフレーズは、「日本の明日を、私たちで決めよう」でした。児童会役員選挙に置き換えれば、「早川南の将来を決めに行こう」「早川南の将来を、私たちで決めよう」となります。明日の立会演説会、立候補者の7名には、自分の思いを語ってほしいと思います。そして、その思いを汲み、全校児童20名は確かな判断で一票を投じてほしいと思うのです。明日の投開票の結果如何に関わらず、これまでの子どもたちの努力にエールを贈ります。